

# 総動員伝道

## 総動員伝道の目標

1. すべての人に福音を伝えよう。
2. すべてのクリスチャンがよいあかし人になろう。
3. すべての教会が成長しよう。

## 主は働き人を求めておられる

総動員伝道 委員 小助 川次 雄



主は、昔も、今も「働き人」を求めておられる。

その一、

「わたしはだれを遣わそう。だれがわれわれのために行くだろう」と言っておられる主のことは聞いたので、言った。「ここに、私がおります。私を遣わしてください」(イザヤ六・8)。

こうして、主はイザヤという働き人を用いられることになった。

その二、

「わたしがこの国を亡ぼさないようにわたしは、この国のために、わたしの前で石垣を築き、破れ口を修理する者を彼らの間に捜し求めたが、見つ

からなかった……」(エゼキエル二二・30、31)。  
このときは、主の御声に聞き従う者はいなかったたので、主は激しく怒られた。

その三、

「まだ、若い、と言うな。わたしがあなたを遣わすどんな所へでも行き、わたしがあなたに命じるすべての事を語れ。彼らの顔を恐れるな。わたしはあなたとともにいて、あなたを救い出すからだ」

こうして、主は、エレミヤを用いられることになった(エレミヤ一・7、8)。

旧約の時代だけではない。

その四、

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のための働き手を送ってくださいるように祈りなさい」。

これは、主イエスのおことばである。「収穫のための働き手」が足りないの

ある。今も、同じではないか。

その五、

「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国民を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の名によってバプテスマを授け、……教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます」(マタイ二八・19、20)。

これも、主イエスのことばである。世の終わりまで、主のみことばを宣べ伝える人が必要なのである。

その六、

「……聞いたことのない方を、どうして信じることができるでしょうか。宣べ伝える人がなくて、どうして聞くことができるでしょう。……『良いことの知らせを伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう』(ローマ十・14、15)。

これは、使徒パウロのことばである。ひたすら福音のために働いた使徒のことばであり、同時に神のみこころの教示でもある。神は繰り返し、ご自身のみわざを進めるために、人を求めておられるのである。主は、あなたにも問いかけておられるのではないだろうか。

## 伝道メモ 59



先日、順天堂大学医学部の病理学教授 樋野興夫さんからファックスをいただいた。「プロのなさざること」というテーマで書かれた文章である。内村鑑三が「ゼントルマンのなさざること」という文章を書いたようで、それにあやかっただけの樋野流「プロのなさざること」なのである。これを一応プロである牧師、伝道者に当てはめてみたいと思った。

**牧師の仕事**は、「ゆりかごから墓場まで」神からお預かりしている人々（会員、および求道者、さらに多くの人々）のお世話をすることである。表向きには日曜日の礼拝説教ぐらいしか一般の人々の目には留まらないだろう。説教の準備は、2、3日机に着いて纏め上げるものではない。今までの人生経験や学び、訓練、あらゆるものが総合されて、ひとつの説教となる。1回の説教のためにどのくらいのエネルギーが必要となるかは測り知れない。さらに教会の諸雑務もある。会員を初めとする人々への訪問、電話の対応、最近はメールでの相談も多い。原稿を書くことも多い。いろいろなところでの講演もある。

しかし、**牧師への評価**に対して、人々の目はそんなに生易しく親切でもない。ずぼらな生活をしていても、「先生」と呼ばれて「謝礼」をもらっている、ぐだぐだしゃべっている説教につきあう信徒の身になってみる、などなど痛烈な批判もある。

さて、樋野さんの提言に戻ってみよう。彼の言う「プロのなさざること」とは何をさしているのか。

- 1、プロは人をその弱さに乗じて苦しめず
- 2、プロは人に悪意を帰せず
- 3、プロは人の劣情に訴えて事をなさず
- 4、プロは友人の秘密を公にせず
- 5、プロは人と利を争わず

以上の5つである。

**牧師、伝道者はプロ**である。社会的にひとつの立場が与えられている。だから、それなりの見方を一般の人々はなさる。当然のことである。

話をするという事を取り上げても、大学教授や政治家、講演者、断家、アナウンサーというプロに人々が期待するようなことを、牧師や伝道者にも期待する。毎週説教しているのだから、あたりまえといえば、あたりまえ。プロとしての見識や知識、話し方の技術も期待されるだろう。説教は単なる講演と違うのは神の名によってしていること、神がそこに関与してくださっていることだろう。だから一般の評価と違っていいのだ、といえそう言えるかも知れない。でもプロである。努力すべきことも多くあるだろう。

ゆりかごから墓場までお世話をする。育児のことから、しつけ、進学、恋愛、就職、結婚、出産、病気、老化、そして葬りまで。その間にいろいろな人生課題に直面する。時には死を選ぶようにする人も出てくる。相談に乗る機会が多い。カウンセラーに近いこともする。しかしカウンセラーには出来ない分野が牧師にはある。

樋野さんがあげた5つのことを静かに思い巡らしたい。最近は牧師による暴力、束縛、支配、カルト化した言動が社会問題となっている。牧師に与えられている立場と権威を振り回し始めると事は穏やかではない。それは教会の、そして挙句の果てはキリスト教の評価に繋がっていく。プロである牧師、伝道者は牧会書簡を、ことあるごとに目を通す必要がある。

歴史を振り返ると、ひとりの人がもたらした世界大の感化力に驚かされる。1万人を超える日本人牧師と伝道者が、

いかに日本に感化を及ぼすことが出来るだろうか。プロであることの認識を改めて思い起こしながら、主の憐れみを求めるや切である。

(姫井雅夫)

医療法人社団 誠志会

**誠志会病院**

\*\*\*看護師募集中\*\*\*

院長 岡田信良

〒174-0043 東京都板橋区  
坂下1-40-2

TEL 03-3968-2621

◆シリーズ  
21世紀の宣教ビジョン  
日本ホーリネス教団  
教団委員長 内藤達朗

「絶大な価値に  
生きるホーリネス」

日本ホーリネス教団は2001年に創立100周年を迎えた。その年、3年間の準備期間を経て「第1次教団構造改革」を開始した。教団の5つの基本原則「聖書信仰、伝道第一、四重の福音、信仰による自立、教会形成」を継承し、この基本姿勢に立って「包括的な福音宣教の実践の推進」に取り組んだ。この改革は伝道と教育の主体は各個教会にあるとの認識に立ち、各個教会、教区の主体による宣教と教会形成を教団が支えるという姿勢を基本とした。これに伴う教団の構造改革を実施し、5年間取り組んできた。

この推進と評価のため、構造改革対策室を設置し、推進状況を検証、啓発し、3年間のまとめをし、4年目に第2次構造改革を開始し、5年目にその実施の準備をし、2006年、今年3月「第2次教団構造改革」が開始された。

アチーブメント株式会社

選択理論に基づいた、  
人材教育を試みる会社です。

代表取締役社長 青木仁志

〒141-0022 東京都品川区東五反田  
4-6-6 高輪台グリーンビル3F  
TEL 03-3445-0311(代)

この度の構造改革は、第1次がハード面を中心に改革されたのに対し、第2次はソフト面、すなわち、基本姿勢の充実に土台したものとなった。

基本姿勢の強調と実現

前述の5つの基本姿勢を次期5ヵ年においては、左記のように強調点を置き、その実現を目指す。

1 伝道第一、2 信仰による自立、3 四重の福音、4 聖書信仰、5 教会形成

1. 伝道第一：喜びを持って「包括的福音の宣教」を実施する。

現代はキリストの福音を必要としている人々が沢山おり、多くの方々がそれを切に求めており、その対象者が日本においては99パーセントある。この福音を経験し、その宣教を託されていることを再認識し、教団挙げて宣教することに専心する。そして、地域性を重視し、その地域にふさわしい宣教に取り組む。

2. 信仰による自立：成熟した教会の形成

神以外の何者にも依存しない姿勢で、牧師と信徒のそれぞれの立場の賜物を生かし、共同で教会運営・牧会に当たる。

3. 四重の福音：四重の福音の再認識と現代的適用

四重の福音は教団の土台であり、使命であることを再確認し、「現代的でわかりやすい四重の福音」を啓発し、教団意識を高揚し、

主と教会、社会に仕える。

4. 聖書信仰：信仰の原点を大切にして生きる

聖日礼拝が信仰生活の生命線であることを再認識し、復活の主に出会うために牧師と信徒が存在をかけて取り組む。そして、献身して主に仕える。聖書通読、研修、修養などに勤め、悔い改めの実を結ぶ信仰生活に励む。

5. 教会形成：与える教会としての「教会形成」

互いのことに関心を示し、互いのために祈り、互いのために仕える教会運営を目指す。自分の属す教会だけでなく、他の教会に仕える喜びを味わう。

世界に仕える「世界宣教」

東洋宣教会、世界ホーリネス教会連盟、三国交流などの関連機関との連携の中で世界宣教を推進する。

牧師不足への対応

若者の献身者が起こされるように教団挙げて祈り、牧師の働きのすばらしさとその必要性を啓発し、この世界に沢山の伝道者を輩出することに尽力する。

また、牧師と牧師夫人による、あるいは複数の牧師によるチーム牧会や勧士制度、牧師と信徒による共同牧会、引退牧師による協力など、総合的な協力体制を確立し、牧師不足に関し積極的に対応する。

以上の取り組みにより、**真の意味でのリバイバル**を期待する。



# 第5回 首都圏キリスト教大会

## あなたに愛と希望を

- 5月12日(金) 13:30～ 女性大会 淀橋教会 講師:内田みずえ  
18:30～ 一般大会 淀橋教会 講師:クリストファー・サン
- 5月13日(土) 15:00～ 青年大会 青学講堂 講師:クリストファー・サン  
18:30～ 一般大会 青学講堂 講師:岸 義紘
- 5月14日(日) 15:30～ 一般大会 青学講堂 講師:クリストファー・サン



クリストファー・サン師



内田みずえ師



岸 義紘師

桜の花と日本人  
今年も桜がきれいだった。農耕民族であった日本人には、桜は春の生命力の象徴であった。

①桜の美意識。桜の美意識がぐっと盛り上がってくるのは、平安時代に入ってからであるという。「世の中に絶えて桜のなかりせば春の心はのどけからまし」(在原業平)

②散る桜の美学。貴族社会によってやがて「散る花・散る桜」の美意識が強調されるようになった。「久方の光のどけき春の日にしづ心なく花のちるらむ」(紀友則)「さくら花咲くと聞くより出で立ちて心は山に入りけるかな」(本居宣長) ③現代の桜と死生観。近代の日本は、軍国化の傾向を深め、桜の花のようないさぎよい死をよしとする気分をつのらせていった。「万葉の桜か 襟の色 花は吉野にあらし吹く 大和男子と 生まれては 散兵線の 花と散れ」(歩兵の歌)

キリスト者にとって桜の花の艶やかさと散るいさぎよさは、キリストの十字架と復活を思い起こさせる。

住吉英治



第六六話

●「支援、感謝いたします。」  
5月には上記のように12年ぶりに第5回首都圏キリスト教大会が開催されます。総動員伝道では全力を挙げてこれに取り組みたいです。お祈りとご支援をよろしく願います。

〈総動員伝道の組織〉

代表・ 姫井雅夫

委員・ 有賀喜一、福澤満雄、中島秀一、北條和人、安藤能成、住吉英治、鈴木留蔵、岡田信良、多胡元喜、塩島光三、クレイグ・カックス、浅見鶴蔵、姜 星光

顧問・ 羽鳥 明

相談役・ 小助川次雄、村上宣道

### 2月会計

収入	321,311
活動費	43,767
印刷・発送	98,132
部屋代	195,926
人件費	0
積立	10,000
支出計	347,825
累計	-110,370

2006年5月1日発行  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1  
OCC、614号室

#### 総動員伝道

TEL 03-3291-5035  
FAX 03-3291-5266  
Eメール sodoin@ybb.ne.jp  
ホームページ

http://www.gospeljapan.com/sodoin/

振替 00140-1-107255  
代表 姫井 雅夫  
編集 住吉 英治  
定価 一部 10円 (送料別)  
印刷 新生宣教団 (2,500枚)